

| | |
|-----------|--|
| 1 審議会等の名称 | 令和5年度 第3回三重県観光審議会 |
| 2 開催年月日 | 令和5年11月24日(金) |
| 3 委員 | 【会長】埼玉大学 教授 石阪督規 ほかに9名出席 計10名 |
| 4 諮問事項 | 三重県観光振興基本計画(令和6年度～令和8年度)最終案に関する審議 |
| 5 審議概要 | <p>委員からの主なご意見は、以下のとおりです。</p> <p><計画全般></p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後アクションプランで毎年度しっかりPDCAをまわしていくことが重要。 ・今回の計画をマネジメントできる体制、検証していく仕組みが必要。 ・計画の内容が盛りだくさんなので、実施にあたっては、ある程度優先順位をつける必要がある。 <p><目標項目・目標数値></p> <ul style="list-style-type: none"> ・参考指標の域内調達率について、現状把握がなければ目標数値も定められない。アクションプランを毎年度作成するというのもあるので、マネジメントするためにも、予算措置のうえ、域内調達率をしっかりと調査して数値を把握しなければ次の施策につながらない。 ・「副目標3：観光に対する県民満足度」は、みえ県民1万人アンケートにおける「観光客が増えるとどのような効果や影響があったと思うか」という設問の回答結果で測ることとしているが、効果があったと答えた割合を満足度と捉えるのは違うのではないか。 ・国において、持続可能な観光地域づくりに取り組んでいくというメッセージを強く打ち出しているため、目標数値を5地域に上方修正してはどうか。 ・三重県の必死さが伝わってこない。3地域は必達目標とすべき。 ・人材の確保・育成・定着の一番の課題は待遇改善である。働き方改革は待遇改善の要素の一つであり、他にも給与水準アップや、人事制度の整備もある。戦略目標は、待遇改善に取り組んだ事業者数を目標にしてはどうか。 <p><施策の柱1：質が高く、持続可能な観光地づくり></p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光客がたくさん来てくれる、知ってくれる、見に来てくれることを嬉しいと感じる、そういう気持ちを子どもの頃から醸成していくことが大切。 ・観光産業の影響や効果を県民がどこまで理解しているか、ということが重要。オーバーツーリズム等の観光のマイナス面もあ |

るが、経済面等のプラスの効果もあるということを県民に理解してもらわなければならない。観光施策に取り組むことにより、地元民の地元に対する愛着度が高くなる、そういった取組も検討していただきたい。

- ・主要観光地における二次交通の在り方をもう少し深掘りしてほしい。
- ・二次交通に関するバリアフリーについて検討すべき。

<施策の柱2：戦略的な観光誘客の推進>

- ・MICEは平日の利用が多いため、オフシーズンのMICE誘致も効果的ではないか。
- ・MICEのニーズを受け止め、関係者をつなぐ機能が必要であり、MICEのワンストップ相談窓口の設置を検討すべき。

<施策の柱3：魅力的な観光産業の確立>

- ・生産性を向上させるためには付加価値を上げることが重要で、企業の利益を上げ、人件費に反映させなければならない。経営効率を良くするDXや人件費の抑制ばかりに力を入れてはいけないのではないか。
- ・「戦略3-2：観光産業を支える人材の確保・育成」について、「定着」も入れた方がよいのではないか。
- ・南部の人口流出の最大の要因は、若い人がその地域の仕事に定着しないこと。観光産業としての付加価値を上げ、そこで働く意味や意義を理解することが重要である。これに関しては、子どもの頃から意識づけする等の地道な取組が必要。

<計画の推進体制>

- ・めざす姿の「旅行者よし、事業者よし、地域住民よし」の3者が重要なので、「第3章 計画を推進する仕組み」に旅行者を追記してはどうか。